

令和3年度 第2回 大府市生涯学習審議会議事概要

日 時 令和3年8月18日(水) 午後2時から午後3時40分まで
場 所 大府市役所 2階 203・204 会議室
出席委員 会長 池田逸夫、副会長 草野里美、
池山祐子、今井修、犬塚芳克、館内三郎、大橋房代、杉山実希、山本友和、
井上啓子、石黒公子
欠席委員 神田由美
事務局 副市長 山内健次、教育長 宮島年夫、
市民協働部長 信田光隆、
協働推進課長 大塚康雄、協働推進課担当課長 竹田守孝、
協働推進生涯学習係長 久野義鎮、協働推進生涯学習係主任 平松雅也、
神田公民館長 北井康弘、吉田公民館長 牧之瀬睦美、
森岡公民館長 三ツ矢みか、共長公民館長 古田功治
傍聴人 なし

1 副市長あいさつ

7月下旬から8月上旬に開催された東京オリンピック 2021 では、大府市縁の選手6人が出場し、3人が金メダルを取るなど、大変うれしく思っている。

先週から記録的な大雨で大府市では被害はないが、気を引き締めて災害対策や減災対策をしないといけない。また、コロナウイルス感染者数は、大府市でも増加しており、現在は、愛知県のまん延防止等重点措置対象地域に指定されているが、その期限が9月12日まで延長される見通しである。感染症対策をとって、皆さんで気を付けるようお願いする。

2 会長あいさつ

先週から今週にかけて記録的な大雨で災害が各地で起こっている。十分注意が必要。2週間すると台風シーズンになる。上陸しないように祈る。今回は2つの議題の審議をよろしくようお願いする。

3 議題

(1) 大府市生涯学習プランの見直しについて(資料No.1)

事務局：資料No.1に基づいて説明

(委員) このプランに関する令和12年度目標値の根拠は何か。

(事務局) 例えば、生涯学習プラン重点講座実施回数目標値50回は9館×5回+ α と考えている。地域、社会活動に参画した高校生、大学生の人数の目標値は第6次総合計画の目標値とし、中学生学習支援の参加者数の目標値は

定員 80 人のため、この定員数内で多くの人数の受け入れしたいと考え、その目標値を掲げている。

(委員) 他の目標値もそれぞれの根拠をもって目標設定をしているということか。

(事務局) そのとおりである。

(委員) この目標値は全国的にみて妥当なものか。

(事務局) 令和元年と比較して掲げた目標値であり、全国と比較したものではない。現状より上を目指していきたいと考え、設定している。

(委員) 地域力が強化されていかないとこのプランは達成できない。地域未来会議「W i l l」を軸に地域力をどのような考えで展開していくのか。この地域未来会議「W i l l」は、これから始動していくものなのか、また地域単位のものなのか。

(事務局) 地位未来会議「W i l l」は、今年度から新たに始める試みで、地域の課題について考えるための会議である。令和4年3月までに実施予定。地域のあらゆる主体が参加し、地域の課題について考え、公民館職員のファシリテーション能力とコーディネート能力を向上させていく機会と捉えさせていただき、地域と一緒に課題解決や地域の未来について考えていきたい。内容については、検討中である。

(委員) 地域未来会議「W i l l」は各公民館単位の生涯学習推進委員会より規模が大きいものか。

(事務局) 各公民館単位の生涯学習推進委員会は、地域の課題の抽出や委員の皆様からご意見をいただいて生涯学習の事業化をしているが、地域未来会議「W i l l」は、もう少し、幅広く、地域の様々な団体が一体となって公民館を中心に地域においてそれぞれの課題を解決していきたいと考えている。

(委員) これまでの生涯学習プラン 2017 の進捗状況から見える課題について、生涯学習のひとづくりの指標のひとつで自主学習団体が減少したとあるが、理由は、会員の高齢化や SNS 等を利用した個人学習が増加し、集団学習が減少しているとあった。このプランはこの先 10 年間に向けてのものだが、この傾向をどう捉えて新しい学習を考えているのか。現在、地域は、人と人との結びつきが弱くなっており、地域活動を担ってくれている人も疲弊している。このプランでは、地域が主体となって地域課題に取り組み、解決する地域力向上を目標としているが、現状の地域にそこまでの力がない。地域力を再生し、基盤を整えていくことが必要だと考えるが、現在の地域の状況とこのプランをどのように結びつけていくのか。

(委員) 公民館職員は、キーマンの役割を担うことになると思う。公民館職員のファシリテーション能力向上のためのバックアップをしてほしい。高齢者に対しては、SNS、ICTの援助を公民館が拠点となって行うとか、公民館職員だけでなく、大学生等若い方にサポートしてもらって地域で支え合っていけたらいいと思う。

(委員) このプランが実施できたら理想的であるが、若い世代の人は地域で困った事があつたら公民館に聞いてみようという発想がない。公民館の魅力を発信していかないと今後も公民館を使わないと思う。このプランでは若い世代の利用促進に対する具体的な策がみえてこない。もう少し魅力を伝えることができたらいいのではないか。まなポートの参加者に地域活動に参加する機会を提供するとあるが、参加した中学生は地域活動に参加したのだろうか。まなポートに参加したことで地域活動に参加しなくてはいけなくなると負担を感じる中学生もいるのではないか。また、地域課題解決講座を拡充するとあるが、今までの実績に基づき、今後どうするかという分析がされていない。今までの実績を分析し、地域を巻き込んで課題解決にあたってもらいたい。

(事務局) まなポートの地域参加については、現在は公民館まつりを想定している。学習だけでなく、地域との接点、親以外の大人とふれあう機会と考えている。参加は強制しない。状況をみながら、得意な分野での参加を促すことを考えている。

若い世代の公民館利用促進に関しては、中学、高校、大学生の頃から地域の活動に参加することにより、将来的には公民館利用に繋がっていくと考える。特に大学生の学びを地域に生かす事も検討している。課題解決講座拡充に関しては、実績から課題分析を行い、次につなげていくことが必要と考えている。学びから地域活動につなげ、それが地域力向上となるよう総合的に考えていきたい。

また、地域が高齢化し、地域力が低下している現状において、地域力向上のため、公民館職員がつなぎとなり、新たなネットワーク構築を考えている。

(委員) 誰一人取り残さないとあるが、世帯収入の格差により、学びの機会が奪われないようにしてほしい。

(事務局) 誰一人取り残さない社会というのは本当に難しいが、最も弱い立場の人に視点をあてて誰一人取り残さない生涯学習を考えている。

(委員) 若者への情報発信にはSNSが一番効果的だと考える。生涯学習データベースを見たが利用団体に関しては一覧表の掲載はあるが、基本的な情報のみで活動内容等詳細はわからない。公民館のWebページも開館時間等の基本的な情報のみである。もっと、公民館から若者に向けて、情報発信をする仕組みを充実させ、検索データの閲覧件数から内容の検証を行う等これからの新しい生涯学習においては、SNSやICTを活用し、よりよいネットワークづくりをしてもらいたい。

(事務局) 生涯学習データベースは、活動内容の詳細は詳しく掲載はしていない。内容の問い合わせについては、公民館に直接問い合わせをいただき、説明している状況である。SNSの活用に関しては若い世代向けに検討していく。

(委員) 公民館の建物の構造がこのプランに沿った構造になっているだろうか。従来の利用方法の見直しを考えないと今のニーズにあっていないのではな

いか。

(事務局) 大府市の公民館は充実している方だと思うが、若い世代の方には、古い設備と感じるかもしれない。若い世代の方の意見を聞きながら、このプランの達成ができるように始めていきたいと思う。

(委員) 建物の構造に関しては難しいかと思っているが、このプランに沿った内容とするための設備の充実に関しては、未来につなぐ生涯学習への挑戦とあるように取り組んでいく方向だと感じている。

(委員) 全ての人を使いやすい施設を目指すところがあるが、例えば公民館の会議室は、ほとんど2階にある。階段の昇降が困難な人は講座等に参加しにくい状況である。全ての人を使いやすい施設ということを今後の取り組みとして具体的に検討してもらいたい。

(事務局) 公民館の会議室は2階にあるところもあり、市内公民館でエレベーターを設置しているは2館のみである。ご意見をこのプランの中で検討していきたい。

(委員) イメージでいいので大府市の公民館活動は、例えば上、中、下でいうならどのあたりか。また、公民館の調整や相談等のコーディネート実績はどのくらいなのか、公民館を中心とする仕組みづくりを作らないとこのプランは進んでいかないと思うがその点についてはどうか。

(事務局) 大府市の生涯学習は、正規職員を2名配置していることから非常に力をいれていると自負している。このような配置をしていることは知多管内にはなく、県下や全国的にもほとんどない。現在の生涯学習の方向性は、地域の課題解決に資する生涯学習を推進していくというものであり、大府市の公民館においても地域課題の解決に向けた施策を重点的に行っていく施設に変わってきている。公民館は、この4月から市長部局へ移管し、より一層相談しやすく、公民館と地域が一緒になって事業も展開しやすい体制となった。相談件数に関しては、従来から他部署との連絡調整等も行っているが、館長の感覚だと月5～6回程である。

(委員) 地域は疲弊している。20年前は60歳以上定年で、そこから地域活動へ参加するという形で地域は若かった。しかし、現在60歳以上は働いており、地域活動の主体は70歳以上となっている。地域の仕組みづくりを整え、地域活動が円滑に進められるよう行政でイニシアティブをとってもらいたい。

(2) 公民館及びいきいきプラザの開館時間等の見直し検討について (資料No.2)

事務局：資料No.2に基づいて説明

(委員) 以前あった月曜休館とは別の案件か。

(事務局) 平成29年度に審議していただいた月曜休館の案ではない。開館日は平成8年より、開館時間は当初から変更していない。今回は現在の運用実績をみて、現在の状況にあっているか検討していただきたい。

(委 員) 休館日は月2日だが、3人の職員で運営しているのか。

(事務局) シフトを組んで運営している。

(委 員) 営業時間も長い。職員がハード勤務ではないか。

(事務局) 昼間と夜間の会計年度任用職員を5人配置しており、7人で館を運営している。

(委 員) 大府市の使用料はどのくらいのレベルなのか。

(事務局) 知多管内では、比較的に安めの使用料である。

4 報告事項

(1) 社会教育関係団体定期報告について (資料No.3)

事務局：資料No.3に基づいて説明

8団体が減少している。理由としては、会員の減少やコロナの影響等があげられる。

(委 員) 社会教育関係団体とは減免団体ということか。どの程度の減免団体か。

(事務局) 使用料を100円いただいている団体である。

(2) 永田雅宜氏プロジェクトについて (資料No.4)

事務局：資料No.4に基づいて説明

(委 員) 質問、意見等なし

5 教育長あいさつ

プランの見直しについては、課題は多い。地域力について10年見通した内容であること、公民館を活用しやすい人的、物的環境であること等検討し、次の審議会でご提案したい。

開館時間に関しては、今回は頭出しということで、これから検討していく。永田プロジェクトについては、永田雅宜先生は地域では、あまり知られていないが、改めて地域に知ってもらう機会としたい。

【次回予定】

第3回生涯学習審議会 令和3年11月5日(金) 午後2時から
大府市役所 2階201・202会議室にて